

Title	大阪市立聾学校におけるホームページへの取り組み
Author(s)	多田, 幸浩; 神山, 幸雄
Citation	大阪大学大型計算機センターニュース. 1996, 99, p. 51-59
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/66139
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

大阪市立聾学校におけるホームページへの取り組み

－ 大阪市立聾学校ホームページの概要 －

大阪市立聾学校高等部教諭 多田幸浩

tada@osakarou-sfd.chuo.osaka.jp

初めに

100校プロジェクト参加校としてインターネットに接続され、まず初めにしたことがNTTのホームページへのアクセスでした。ホームページはニュースや雑誌などで大きく紹介され、言わばインターネットの派手な部分だけに、学校のクライアント(Macintosh)のモニタで初めてホームページを見たときは本当につながっているんだと強く感じました。インターネットを利用できる状態になったと言っても、何ができるのか、何から手を付ければいいのか、全く分からないずぶの素人、そこからのスタートでした。

WWWサーバは100校プロジェクトの導入業者(IBM)がインストールしていましたので、サンプルのファイルを別に準備しておいたHTMLファイルと差し替えて、本校のオリジナルへは割と早くに切り替えることができました。HTMLのフォーマット・文法などのガイドは兵庫教育大学学校教育研究センターで御指導いただき、後はいろいろなホームページのソースを見ながら調べていきました。また宮崎医科大学のホームページ(<http://www.miyazaki-med.ac.jp/HowTo-HTML/HowTo-Index.html>)に分かり易いリファレンスがあると教えられ、折しもHTMLに関する書籍(インターネットホームページデザイン/吉村信・家永百合子・鏡聡 編著など)も相次いで出版されたので、非常に助かりました。

WWWサーバへファイルを登録する作業で、FTP(Fetch)やTelnetについて経験を重ね、若干ながらUNIXを操作できるようにもなりました。しかしサーバ設置時にはIBMの方がパツパツと日本語表示をして下さいながら、自分だけではUNIX上で再び日本語を見られません。これ以上告白すると大変恥ずかしい気がします。ここで技術的なことは、私が何を書いても釈迦に説法になってしまいますので、そろそろ本題へと移りたいと思います。

ホームページの作成メンバー紹介

本校のホームページは現在3名の教師によって作成されています。簡単にメンバーを紹介させていただきます。

まず、商業科の神山幸雄教諭は100校プロジェクト副担当で、生徒会を担当しています。学校生活の様子などをホームページで紹介しており、また生徒会新聞をDTPを利用して発行しています。そのデータをホームページに仕立て再利用しようと現在、新聞委員会を指導しています。

英語科の吹田順一教諭は聴能関係を担当しています。聴覚障害に関するホームページを作成しています。また本校のホームページの英訳を進めており、海外に向けて整備しています。これら以外にも英語の授業で米国のGaullet大学などとメールを使って英語の実習を行なっています。

最後に私ですが産業工芸科に席をおき、100校プロジェクト担当をさせていただいています。ほとんどのページは私がメンテナンスしているのですが、なかなか手を入れられず、中途半端な状態で申し訳なく思っています。授業は製図を担当し、養護・訓練の時間を使って生徒にホームページを作らせようとしています。専門は日本画です。

http://www.osakarou-sfd.chuo.osaka.jpの構成

本校ではWWWサーバを2つ立ち上げています。1つが100校プロジェクトから貸与されているUNIXマシンで、これはインターネット関連のサーバをすべて兼ねており、生徒には使用させず、職員室に置いています。URLはhttp://www.osakarou-sfd.chuo.osaka.jpです。後1つはMacintoshでこれは生徒の授業用のマシンをWWWサーバとして運用しています。URLはhttp://w3.osakarou-sfd.chuo.osaka.jpです。UNIXとMacintoshを共に使ってみて、やはりホームページの維持の面でMacintoshの方が断然使いやすく、将来的には専用のマシンを用意してMacintoshに一本化して運用していきたいのですが、まだ予算がなく、しばらくは今の状態が続くと思われます。



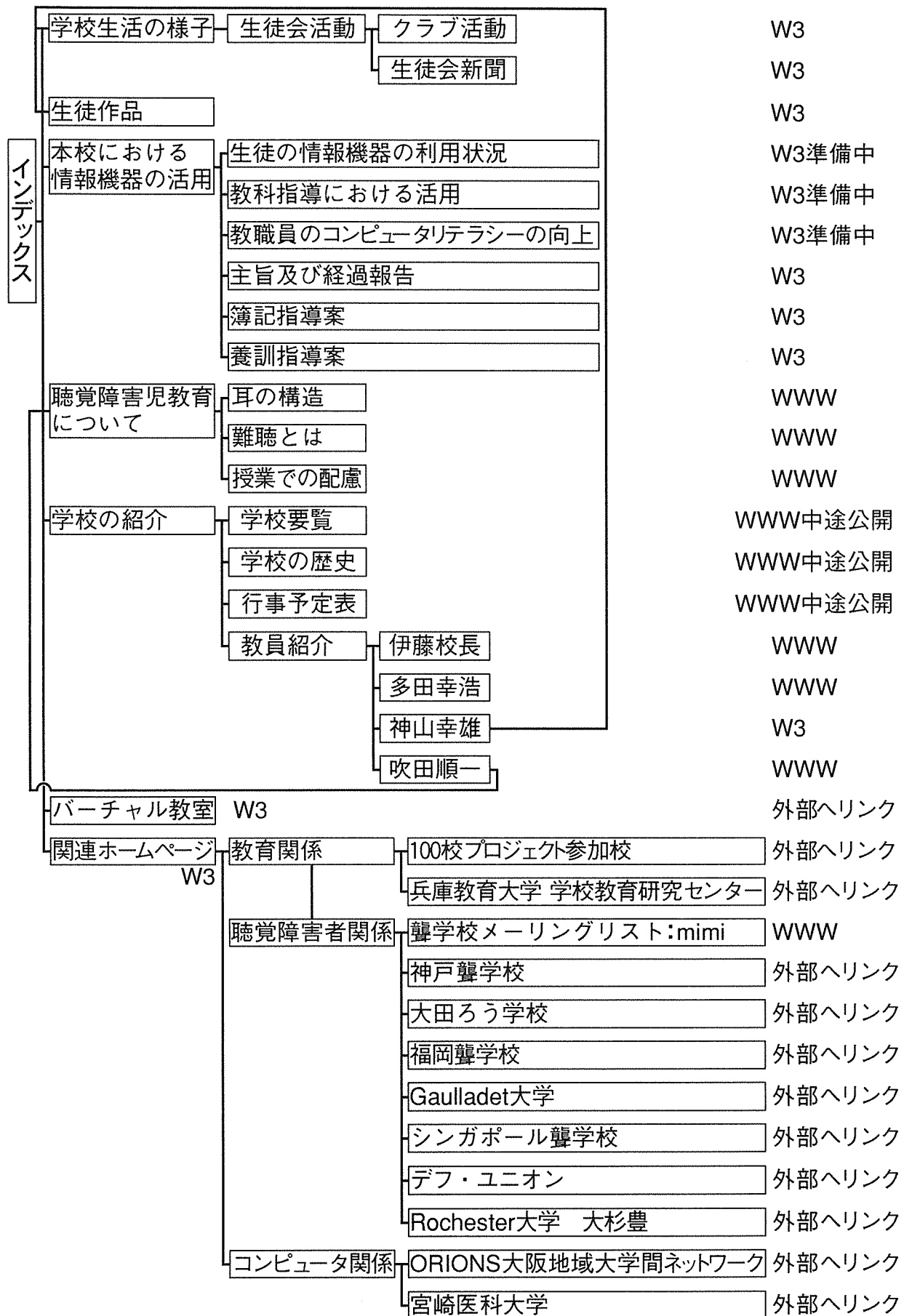
図1:最初に公開した本校ホームページ
1995.6/12～

この時点では日本語のホームページと英語のホームページを分けていたが、図2の時点から一本化を試みる。準備中を多く残しながらのスタートであったが、それは現在でも変わっていないのが、悲しい。



図2:現在の本校ホームページ 1995.10/27～

それぞれリンクを張っていますがまだ準備中が多く、見ていただいている人にご迷惑をおかけしています。しかし授業の合間を縫っての作業では、限界の部分もあります。ベースのページの段階であり夢を膨らませない方がこういう事態を引き起こさないのですが、ホームページを作っているときにはあれもしたいこれもしたいと欲張ってしまいます。実際まだ物足りない状況で、手話のページもなく、かなり自制した結果なのです。



それでは現時点の構成を簡単に図にまとめておきます。これと並行して英語のページもあるのですが、準備中のところが更に多くなります。

引き続き、各ホームページの様子を紹介させていただきます。

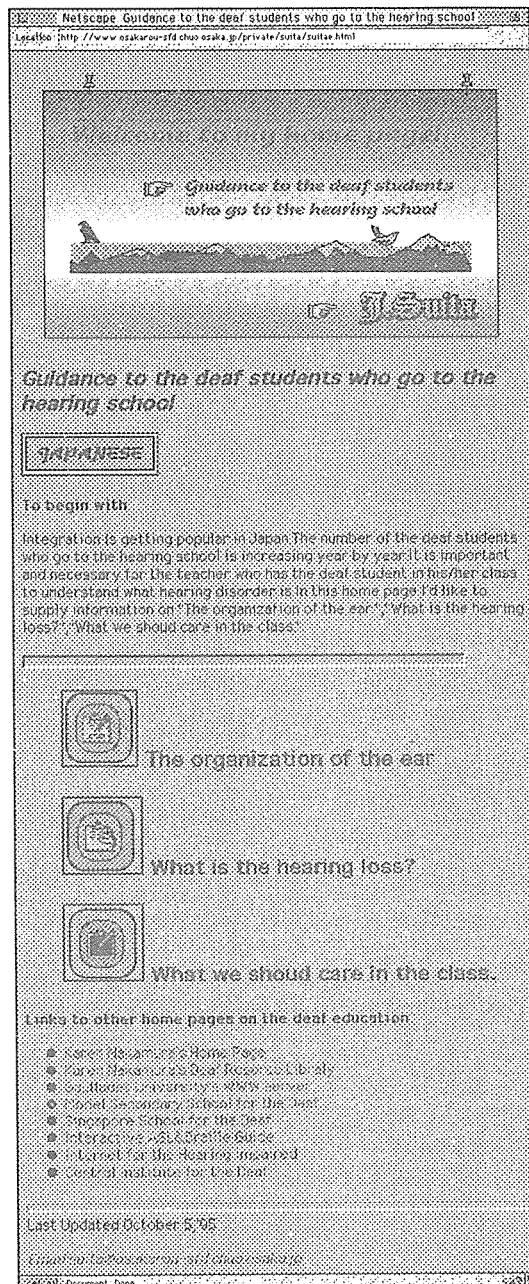
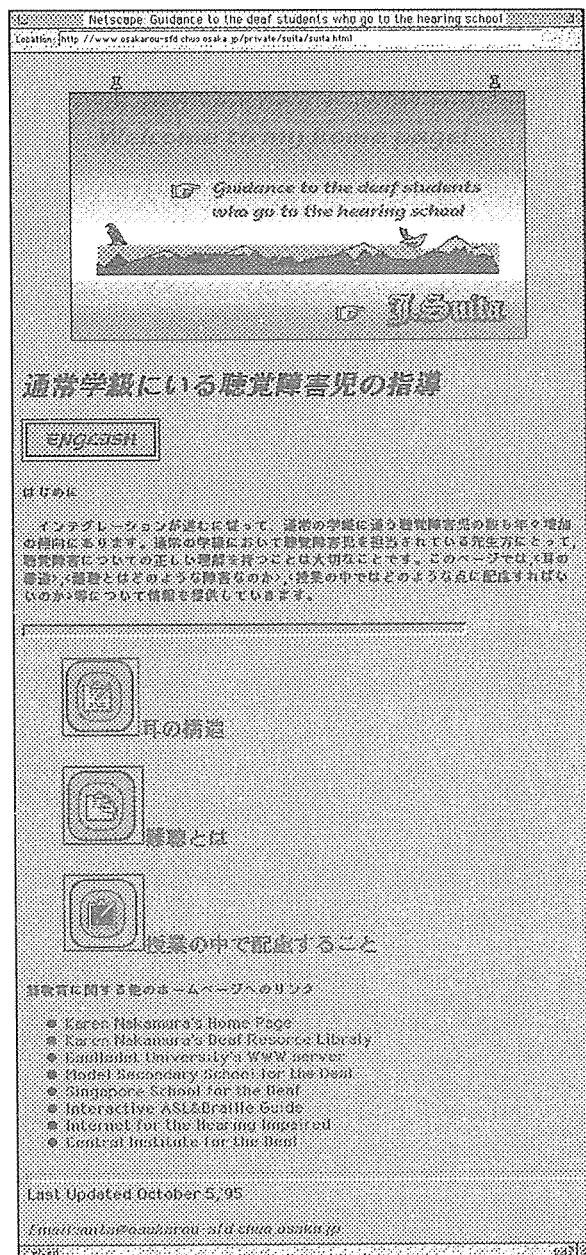


図3:聴覚障害児指導のホームページ (吹田)

このページの英語版が右のものである。ページ毎に英訳するのにかなりの労力を必要とする。ここでは英語の教諭自らのページなので、一番メンテナンスが行き届いている。

このページは吹田教諭個人のページという形で作られましたが、内容からメインのページから直接リンクを張り、できるだけ多くの方に見ていただこうということになりました。次ページにそれぞれのボタンからリンクされているページも併せて紹介させていただきます。聴覚障害についての情報提供は本校の大きな役割と位置づけることができますが、今はまだ吹田教諭のページしか準備されておらず、今後充実させていきたいと思っています。

兵庫県立神戸聾学校のページには指文字のページがあり、きれいに作られています。URLは<http://koberou-sfd.tarumi.kobe.jp/rosha/rosha.html>で、いろいろと面白い試みもしています。本校でもまた別の視点から情報を提供していければと考えています。

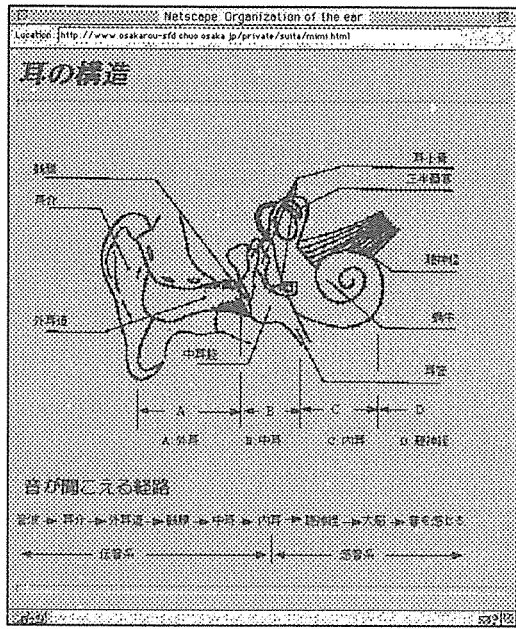


図4: 学校全体の紹介は月並みだが

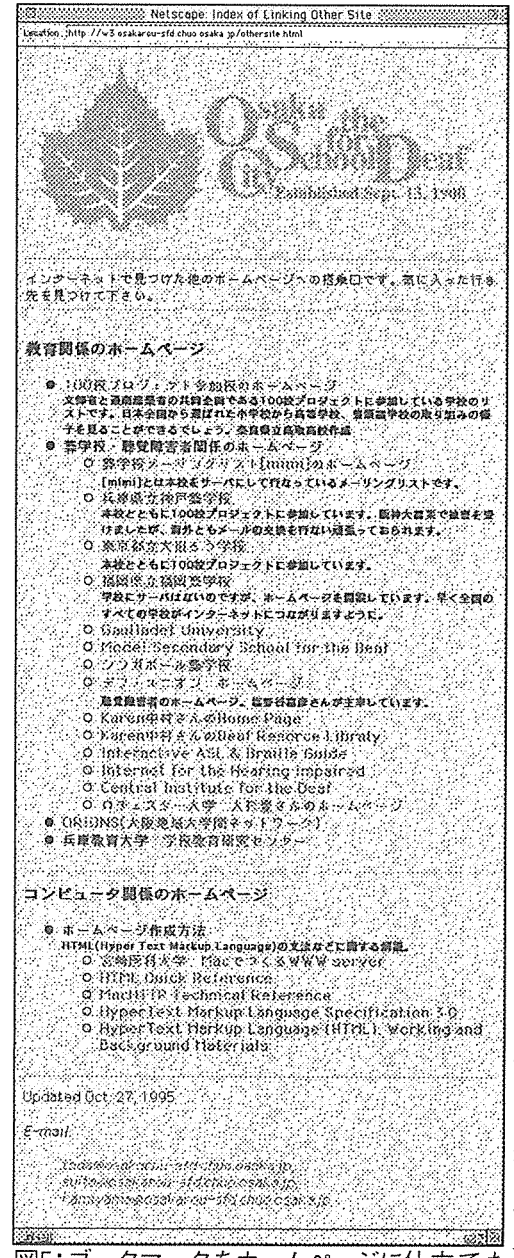
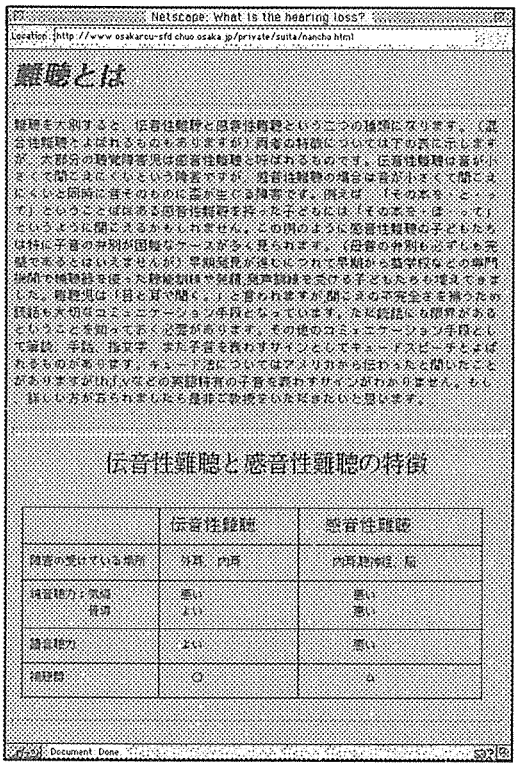


図5: ブックマークをホームページに仕立てた

学校全体の紹介は月並みなものです。新しくネットワークに対応した学校紹介を策定していくべきなのでしょうが、全体の足並みはなかなか揃わず、旧来以前の焼きなおしに終わっています。本校は幼稚園・小学部・中学部・高等部、そして寄宿舎と多くの学部から構成されていますが、インターネットに取り組んでいるのは高等部のみで、他の学部は物理的にネットワークと接続できないこともあり、利用していきこうという気持ちが乏しいようです。せつかくの設備ですが、もったいない状況にあると言わざるを得ません。



We are winners!

1995年6月6日、第45回近畿聾学校陸上競技大会が大阪市長居第二陸上競技場で行われました。高等部男子は総合優勝を勝ち取りました。



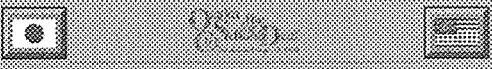
上位入賞者の記録

高等部本科						
種目	名前	順位	記録	学年	性別	
100m	阿部清志	1	11'7.1	1年	男子	
200m	竹本吉香	1	23'7.3	3年	男子	
400m	飯田行和	2	58'9.2	2年	男子	
800m	飯田行和	2	2'15'8.2	2年	男子	
1500m	森平勝裕	1	4'47'5.3	3年	男子	
5000m	森平勝裕	2	17'57'9.3	3年	男子	
	飯田行和			2年		
4×100m	大鶴 健	2	47'6.1	1年	男子	
リレー	竹本吉香			3年		
	阿部清志			2年		
	竹本吉香	1	1m70.3	3年	男子	
走高跳	大鶴 健	2	1m46.1	1年	男子	
走幅跳	阿部清志	1	5m32.2	2年	男子	
砲丸投	竹本吉香	1	10m42.3	3年	男子	
やり投	竹本吉香	1	50m92.3	3年	男子	大会新記録
	かせ谷昌弘	2	37m72.2	2年	男子	



竹本吉香はやり投げで大会新記録を樹立し、最優秀選手賞（副賞：金メダル）をいただきました。

図6: 陸上部では近畿聾学校の大会で久々に男子優勝を飾り、保護者会でインターネットを紹介する際にそのホームページを見ていただいた。



- 目次
1. 情報機器の利用状況
 1. 調査実施結果
 2. 資料提供に条件等活用
 1. 設備状況
 - コンピュータ設備状況
 - ネットワーク
 2. 利用状況
 - 学・公・大・研究等（中間報告書からの資料）
 - 授業用途
 - 授業上の利用
 - 管理利用
 - インターネット
 - 生徒利用
 - 研修等と関係（研修について）
 - 地域利用
 2. 教職員コンピュータリテラシーの向上
 1. 研修の実況（中間報告書からの資料）
 2. 調査結果の分析と今後の課題
 3. 結論

中間報告書より抜選

- （要約中）
1. Internet導入経緯
 1. ネットワーク利用環境整備事業
 2. 環境整備と今後の予定
 3. 基本的なネットワーク教育への取り組み
 4. インターネットに活用する不安

研究指定校の発表経緯

- 発表の経緯
- 発表の目的
- 発表の経緯
- インターネットの活用

このホームページは関連のホームページで提供されている資料名・プログラム名・製作者等は一部に名社の商標または登録商標です。

このホームページ及び関連ホームページの一部または全部を、転載・複製・複製・転載・複製・電子コピーなどで再利用することを禁じます。また、教育活動のために引用する場合はこの限りではありません。

Updated Oct. 27, 1995

図7: 研究指定校の発表はインターネット上でも公開してみた。発表前に取りあえず研究討論で使う部分のページを作り、発表後、残りのページを作ろうと思ってから手つかずの状態が3か月以上経過とうとしている。やはり鉄は熱いうちに打て、か。

種依存しないホームページでの教材作成に取り組みたいと思っています。そのためにもCGIやJavaなどを積極的に取り入れていきたいと考えています。引き続き、学校生活を紹介するページについて、神山教諭から報告があります。

－ 生徒会活動におけるホームページ作成への取り組み －

大阪市立聾学校高等部教諭 神山幸雄
kamiyama@osakarou-sfd.chuo.osaka.jp

はじめに

本校高等部の生徒会活動は、文化祭や体育祭など年間行事として組み込まれているものから、新聞の発行や球技大会などの、日常的な活動まで、1年を通じて多岐にわたっており、情報量としては充分すぎるほどです。私は100校プロジェクト担当でしかも生徒会顧問でもありますので、生徒会活動をホームページ上で公開するということに対しては、ある程度まかされていました。当初は、その情報量の豊富さ故に、情報の取捨と扱いに迷い、情報公開を少し躊躇しましたが、(例えば、生徒の顔写真、名前などの扱いについて—これは、現在でも迷い続けています。)
「生徒会活動をホームページ上で公開する」ということは、情報を発信すると同時に「学校における日常の記録」でもあると捉え、とにかく思いつくままに取り組みはじめたというのが正直なところです。

生徒自身が、情報を自ら発信することによって、情報を取捨選択する力が少しでもたかまってくれたらと願っています。

以下、簡単ですが、現状を報告させていただきます。

生徒会活動の公開

本校高等部では、生徒会活動のひとつとして各種委員会(本科、専攻科の別なくすべての生徒がいずれかの委員会に所属しています。)というものが組織されています。生活・体育・美化・図書・新聞の各委員会です。現在発行している生徒会新聞は「青い地球」という名前ですが、この「青い地球」の第1号が新聞委員会によって発行されたのが平成6年の4月でした。当初は手書きで出発しましたが、徐々にワープロソフトの「一太郎」を使えるようになり、2学期の後半ぐらいからは、図形作成ソフトの「花子」で作成できるようになりました。このように、手書きからコンピュータでの作成へ移行できたのは、新聞委員のなかでも、専攻科の商業事務コースを専攻している生徒の力に依るところが大きかったと思います。商業事務コースの生徒は、授業で毎日のようにコンピュータに接しています。当時は残念ながら、専攻科の商業事務コースの生徒とそれ以外の生徒では、コンピュータに接する機会にかなりの差がありました。(今年度に入って、他の学科や養護訓練の時間でもコンピュータを利用するようになり、少しずつではあるが、その差は縮小しています。)彼らが、コンピュータの操作に関してかなりのリーダーシップを発揮してくれたことで、私自身非常に助かったというのが実感です。発行部数は年間4～5部と少なく本格的に活動出来ている状況ではありませんが、このような地道な活動が、生徒自信の手による、生徒会新聞をはじめとする生徒会活動のホームページ上での公開に結びついてゆくと考えています。

新聞をコンピュータで作成することによって、そのデータがいろいろな場面で再利用できるようになる、と常々生徒たちに指導していたのですが、学校生活の中で具体的にどのような場面で再利用できるのか、ということを生徒たちに示せずにいました。そういう状況の中で、100校プロジェクトの話をいただいたわけです。ホームページを作成し、公開

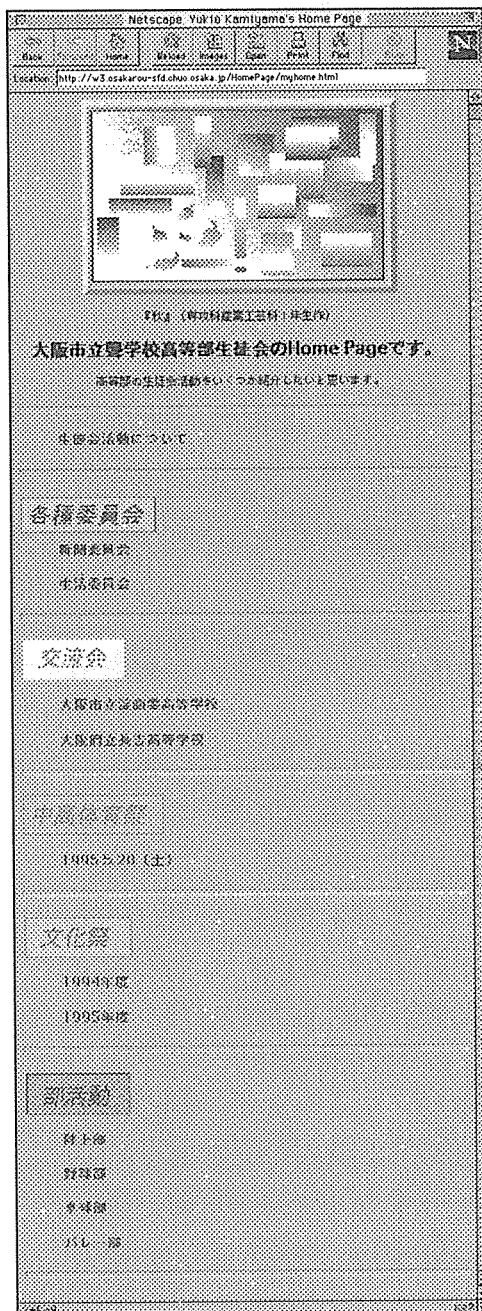


図1: 生徒会のホームページ
学校生活の様子を、生徒からの視点で
情報発信することを目指している。

することによって、「データを再利用する」ということを、生徒たちに具体的に示せるのではないかと思いました。それで、今年の7月下旬ぐらいから準備にとりかかりました。(この時点ではすでに、多田教諭により大阪市立聾学校としてのホームページは公開されていました。)とりあえず、インターネット上で公開する前に、生徒たちに説明する必要があると思い、個人的に作成したものが、図1「生徒会のホームページ」です。そして、9月の初旬に生徒集会ではじめて生徒たちに公開しました。私自身は、すでに新聞委員が発行していた「青い地球8号」のホームページにどのような反応があるか、非常に興味を持っていたのですが(図2「青い地球8号」)、幸いなことに、新聞委員の生徒が、このような形で情報を公開することに理解を示してくれたので、正直ほっとしました。さらに、文章表現の大切さについても、理解を深めてくれた様子でした。他にも、色々なことについて話し合ったのですが、その時に私と新聞委員の間で、次号からはホームページにも新聞を載せようということになったのです。

「青い地球9号」は12月22日の終業式の日発行されました。(ちなみに、毎号そうであるが、計画から発行まで約2～3週間かかります。)そして、現在10号の作成に取り組んでいます。と同時に、9号のホームページの作成も継続しています。9号が発行されてから、かなりの時間が経っていますが、新聞委員によって少しずつ作業が進められており、近々公開されることになると思います。「生徒だけで」というのが私の願いでもありますので、時間的なことについては、全く指導していません。生徒まかせです。

ただ、技術的な問題を生徒達も感じているようで、そのあたりにも作業を遅らせている原因があるようです。(もちろん技術的な問題に関しては、少しずつ指導はしていますが...)。このように、生徒によるホームページの作成ははじまったばかりで順調には進んでいませんが、とにかく気長に指導していきたいと思っています。

生徒会新聞は生徒の学校における日常を記録できるものです。生徒達の生き生きとした姿をできるだけたくさんの方に見ていただけたらと願っています。(図3「94文化祭」)

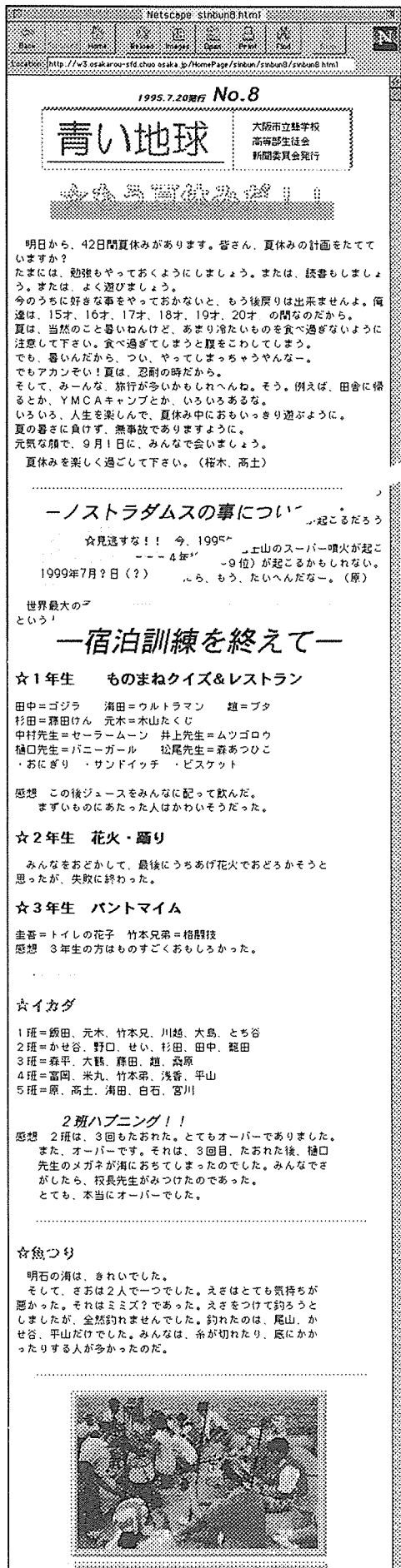


図2: 青い地球 8号

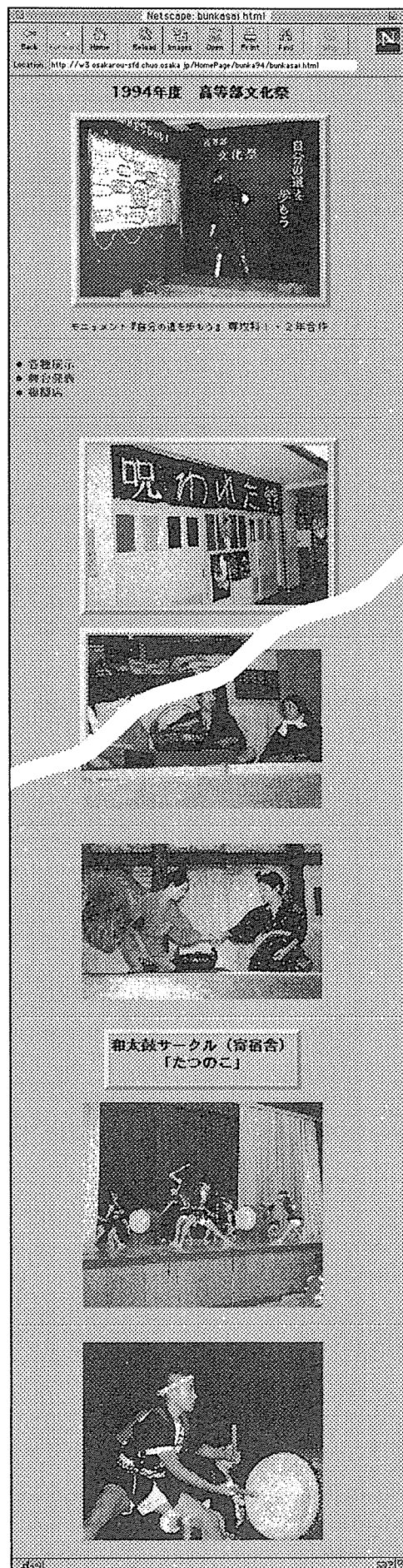


図3: 94文化祭